

黒谷を歩く

湯来が大好きな、いつものこだわりトリオ(仁科、上瀬、賀張)が今回は湯来の秘境黒谷を歩きました。

5月22日。朝から暑さを予感させる日です。9時15分大森神社駐車場を出発。大森神社を右に見て湯来ハイランドの上方を歩きます。辺りは白い草花や薄紫の山藤、紫のアヤメが咲きすっかり初夏の風情です。ハイランドは空き地や空き別荘も多く、全くもったいない。周りの景色もよく東京近郊であれば、大人気になること請け合いです。空気も水もおいしいし、土地代もただみたいなものだし、都会で物価高に苦しむ人たちウエルカムですよ。

ハイランドからゆるやかに上る林道をゆっくりと歩いてゆきます。途中薔薇があり、蕨があり、山独活までありました。左手斜面にはところどころに白い花があります。後で調べたら、ガクウツギのようで、ウツギに似たアジサイというのが本当のようです。いつものことながら、この三人組みには仲良く一緒に歩くことがありません。健脚を生かして、すいすいと前に行くのはNさん。山菜や、珍しい植物があるとどうしても足を止めるGさん。最後尾は小さな生き物や珍しい植物、人の残したしたものなどを見つけるとカメラを向けずにはおれないKさんと思ひ思ひの歩きです。歩き始めて1時間ちょっとで緩やかな峠を越し、道は下り坂に入りました。旧河内峠もそうでしたが先人の道の取り方には驚嘆します。疲れをほとんど感じないのです。

今では大森神社～黒谷間はきれいに舗装がされておりさらに快適な木漏れ日の道です。

1時間半程で、黒谷集落に到着です。ここには平成17、18年の豪雨で流された古いものを黒谷出身者で復旧した供養塔が立っています。又供養塔の右に立っている黒谷マップによると、現在黒谷に残っている旧民家は19軒、別荘が3軒となっています。

沢筋を50mばかり上ると上川さんという旧集落の人に会うことが出来ました。この人の話によると、現在この地で生活を営んでいる人は一人もいないそうです。今は時々タクシーでやってきて、家の片付けなどをしているそうです。又昭和20年代には炭焼きをしていた話や、上部の山裾で8反の田んぼを作っていた等の貴重な話を聞くことが出来ました。この道は阿弥陀山に通じているようで、又の機会に歩いてみたいものです。上川氏宅から周りを見渡せば、全て旧棚田です。往時はここは桃源郷だったのかもしれませんが。

11時10分沢筋沿いに下山開始です。沢の右には棚田が残っています。一部は昨年までは作付けをされていたと思われる所もあります。しかし大半の棚田はかなり前から放棄され、梅の木などが、手入れもされずに放置されています。道幅は2mほどもありますが、野草が伸びて人の歩いた形跡がありません。道いっぱい小さな黄色い花を広げているのはキンポウゲでしょうか、往時にはだれかが大事に見守っていたのかもしれませんが。沢筋の木陰には白いシャガも咲いています。又ウギー、ウギー、ギー、ギーと岩陰でなっているのはヒキガエルでしょうか。奇妙なりズムがあり、昔の人の話し声のようにも聞こえます。

降りをはじめから500メートル程は棚田の名残が見て取れますが、既に杉の大木が一面を覆っていて、盛時の面影はありません。途中杉の倒木や、路肩の崩れにより危険な箇所が数箇所あり緊張感を持って歩きました。又道筋をなだらかにするために、石積みを高くついたり、鉄橋(腐食しており危険)を渡している箇所もあり、かつての住民の人たちの苦労がしのばれます。50分歩き道が良くなったところで、むすびで昼食をとりました。

ここから目的地の菅沢までは道幅も広く途中からは立派な舗装がされています。沢を右に渡り、昼から歩き始めて、50分で菅沢に着きました。ここでまたまたNさんの奥様に迎えに来てもらいました。それも冷たいお絞りとフルーツ付です。本当にありがとうございました。

黒谷～菅沢の道が整備されれば、思いの外近く楽に歩くことが出来、先人のルート取りの確かさに驚くばかりです。又黒澤～菅沢の道には他では見られない植生も見られ、植物好きの人にはたまらない魅力があると思います。そして黒谷集落は何百年も前から、森の木を伐りだしたり、炭焼きをして生計をたて、一方で棚田で稲作や畑作をしほとんど自給自足の生活をしていた、今で言うスーパースロー生活をしていた人達なのだと納得したのです。